

歴ネットイベント

「仙台門松の展示」

歴ネットでは、泉区根白石で昔ながらの門松を受け継いでいる方の協力を得て、仙台門松を復元・展示しています。今ではあまり見られなくなった仙台門松の姿を、この機会にぜひご覧ください！



令和4年度の展示のようす(瑞鳳殿)

期間 12月上旬～令和6年2月中旬

(展示期間は施設ごとに異なります。日程が決まりしだい、博物館ホームページなどでお知らせします)

会場

(歴ネット施設)

史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設、瑞鳳殿、仙台市戦災復興記念館、仙台市縄文の森広場、仙台市歴史民俗資料館、仙台文学館、地底の森ミュージアム

※ 仙台市博物館は休館中のため、今年度はせんだいメディアテーク、仙臺緑彩館に門松を展示します。

問 歴ネット事務局(仙台市博物館) ☎ 022-225-3074

歴ネットとは？

仙台市内にある歴史・文化系ミュージアム9館がつながり活動する「仙台歴史ミュージアムネットワーク」の略称です。

仙台市博物館×吉成市民センター共催事業

第46回仙台市史講座

「近世武士と狩り—仙台藩の事例—」

申込制
聴講無料

江戸時代の吉成や中山(青葉区)の付近は、歴代の仙台藩主たちが鷹狩や山狩を行った狩り場の一つでした。本講座では、仙台藩の武士たちが行った狩りについて、絵図や古文書をもとに紹介し、鷹の専門家である鷹匠についても触れたいと思います。

【日時】 令和6年2月24日(土)10:30~12:00(開場10:00)
【会場】 吉成市民センター 2階会議室
【定員】 40人(応募多数の場合は抽選)
【講師】 堀田幸義氏(宮城教育大学大学院教育学研究科教授)

【申込】 オンラインまたは往復はがきでお申し込みください。

①オンライン(:D-Sendaiオンライン申請システム)

令和6年1月5日(金)9:00~2月1日(木)17:00まで

※お申し込みには利用者登録(無料)が必要です。
※お申し込みにあたっての通信料は各自のご負担となります。

利用者登録・
オンライン
お申し込み



下記URLまたは二次元コードの入力フォームから登録、お申し込みください。

URL

<https://lgpos.task-asp.net/cu/041009/ea/residents/procedures/apply/09b71bdee93d-44ee-b387-94eb051085f0/start>

②往復はがき

令和6年2月1日(木)まで 当日消印有効

往復はがきに、講座タイトル・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入し、下記までお送りください(1通につき1人まで)。

〒980-0862
仙台市青葉区川内26
博物館「市史講座」係

問 仙台市博物館 ☎ 022-225-3074

※駐車場には限りがありますので、公共交通機関でのご来場にご協力ください。



休館中の

仙台市
博物館
だより

HAKUBUTSUKAN DAYORI

vol.
211
2023.12月
2024.3月

対になる絵柄の貝を探す「貝合わせ」という遊びがあります。その貝を納める貝桶は、大名家の婚礼に用いられる重要な調度品でした。

この貝桶は7代藩主・伊達重村の夫人、惇君(近衛氏年子・観心院)の婚礼調度と考えられています。松、竹、梅といっためでたい模様や、近衛家の家紋である牡丹紋が金銀の蒔絵で表されています。貝には源氏絵や花鳥、楽器などが華やかに描かれています。

表紙の資料
まつたけうめぼたんもんまきえ かいおけ
松竹梅牡丹紋蒔絵貝桶
仙台市博物館蔵
(大きさ:幅43.5cm×奥行43.5cm×高53.0cm)



資料をみる目

いろいろ

歴史 × 美術 × 子ども

仙台市指定文化財

たけ びし うめ あおい もん まき え おんな のり もの 竹菱梅葵紋蒔絵女乗物

仙台市博物館の代表的な収蔵品のひとつ
「竹菱梅葵紋蒔絵女乗物」について紹介します。



予告

令和6年4月2日(火)から再開館を祝い、「めでたい」ものをたくさん集めた企画展が始まるよ!この資料も展示されるんだって。楽しみだね!



歴史の目

大名の婚礼

文化11年(1814)に、御三家の一つである紀州徳川家から仙台藩10代藩主・伊達齊宗に嫁いだ錯姫のものとされています。齊宗19歳、錯姫20歳の時に婚礼が行われました。江戸時代、大名の婚礼では、夫人が豪華な調度品を運ぶ人々とともに婚礼行列をなして江戸市中を移動し、嫁ぎ先の藩邸へと輿入れしました。女乗物は夫人の家柄などを示し、婚礼行列に欠かせないものの一つでした。

美術の目

華やかな乗物

金銀の装飾が印象的な女乗物です。外側は、黒漆塗の地に、葉を茂らせた竹の菱形文様と枝についた梅の花やつぼみの模様を金銀の蒔絵で一面に表します。さらに、徳川家の家紋である葵紋を所々に大きく配しています。女乗物の中でも、このような黒漆地に蒔絵で文様と家紋を散らしたものは最高位のものでされていました。乗物の内部も華やかで、側面には風景や源氏物語の場面などが、天井には花や鳥が、鮮やかな色彩で描き出されています。

子どもの目

Q なぜ、駕籠じゃなくて女乗物なの?

A 江戸時代に身分の高い人が使う駕籠を「乗物」というんだ。中でもお姫様が使うものは「女乗物」と呼ばれていたんだよ。



葵紋・梅の花・竹の菱形文様を表す蒔絵(部分)

Q どのくらいの大きさなの?

A 乗る部分の大きさは、だいたい高さが120cm、横が100cm、奥行きが90cmで、重さが全体で約70kgあったんだ。駕籠は上に行くほど狭くなっているね。長い柄の部分は4.5mもあって、これを何人かで担いでいたんだよ。



内部側面の絵画(源氏物語のうち「初音」・部分)

Q なぜ、こんなに豪華なの?

A この乗物は、お姫様が結婚するときに着用される特別なもので、特に豪華につくられたんだ。外側は竹の葉や梅の花、内側は昔の物語の場面を描いた絵で飾られているんだよ。



令和6年4月2日(火)に再開館します!(予定)

当館は令和3年10月から約2年にわたる大規模改修工事を終え、令和6年4月に再開館のはこびとなりました。現在、館内では空調環境の調整や各所の清掃、展示といった再開館に向けた準備を行っています。



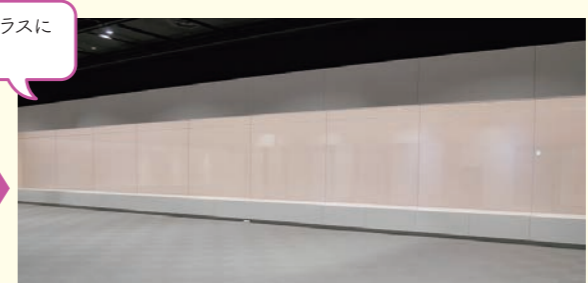
改修後のギャラリー

休館中に実施した主な改修内容

- ・企画展示室、テーマ展示室の展示ケースのリニューアル
- ・空調設備の更新
- ・防犯、防災設備の更新
- ・照明のLED化
- ・ギャラリーやホールの機器の更新 など



改修前の企画展示室



改修後の企画展示室

高透過ガラスになりました

完成したばかりの展示ケースは、資料に影響のある化学物質がケース内に蓄積されやすいため、ケース内の環境確認と調整が必要です。展示はその後に実施することになります。再開館の際は皆様楽しく快適に観覧していただけるよう、館内で様々な準備を進めている所です。ぜひご期待ください。

これ、なあに?

道具でのぞく博物館

博物館が使っている道具を通して、博物館の仕事のぞいてみませんか。今回はサイン(掲示物)などで使っている道具を紹介します。



のり付きパネル

館内には、展示資料の解説や誘導、イベント案内などさまざまなサイン(掲示物)があります。当館ではこれらのをのり付きパネルを使って作成しています。素材は発泡スチロールで、片面にのりが施され、大きさが約76cm×108cmのものを使います。これにプリントしたものを貼り、用途に合わせた大きさにカットします。サイン以外に、プレイミュージアムなどの体験イベント(例:ミニ屏風づくり)の素材としても活躍しています。



「ミニ屏風をつくらう」作品

【のり付きパネルの厚さ】

↑ 7mm

↓ 5mm

資料解説などの小さいパネルには5mmのものを使うなど、厚さの違うパネルを用途に合わせて使い分けています。

【のり付きパネル】

のり面にプリントしたものを貼り付けます

できあがり

のり面 → のり面 → パネルカット

案内する! 休館中のミッション — 再開館後のサイン —

当館では、サインを作成する際に読みやすい文字を使ったり、色や記号を使ったりして情報をわかりやすく伝えられるよう工夫しています。今回の改修では、展示室のプレートや説明板をより見やすい文字に変えたほか、ひろびろトイレの入り口には凹凸と点字を用いた触知図を設置しました。再開館後は、新しくなったサインも含めてお楽しみください。



1階ひろびろトイレの触知図



洋式便器 Western-Style